

1 学 年 第2学年

2 単 元 ふるさと「ちいきの自然たんけん」

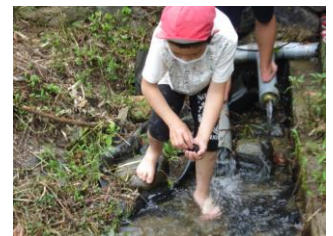
3 実践内容

本校の児童は、人的環境の変化がほとんどない状況で生活している。また、指示されたことには真面目に取り組むことができる児童が多いが、自主性には欠ける。このような実態の中で、ふるさとの豊かな自然や伝統文化、歴史に対する理解を深め、引佐北部地区のよさを継承し、郷土愛を育てるとともに国際社会に生きる人として必要な資質を養い、多くの人とふれあい、ものの見方や感じ方、価値観などを広げ、自己の生き方やあり方を考えることを目的としてふるさと科を創設している。

2年生は、「地域の自然とそれを守る人々の工夫」を課題として取り組んでいる。

① 別所ビオトープ探検

ビオトープに生息する生き物や植物の観察を通して、地域の自然に気付いたり、ビオトープを管理する人たちの働きを知り、自ら地域の自然を守り将来に残そうとする気持ちを高めたりすることを目的としてビオトープ探検を計画した。引佐北部地域にどんな生き物や植物が生息しているかを図書館資料やネットで調べ、自分なりに観察したい生き物を決めて、探検をした。実際には自分が観察したかった生き物はいない場合が多かったが、カワニナやヤゴ、サワガニなどがビオトープのどなたところにいるか、自分なりに場所を確かめながら観察を進めた。



② 久留女木棚田、渋川親水公園探検

棚田についての説明や散策、川での生き物の観察と川遊びを通して、地域の自然の素晴らしさに気付いたり、自然と触れ合う楽しさを実感したりするとともに、川の危険について理解し、自分の身は自分で守る意識を高めることを目的として、棚田や親水公園探検を計画した。親水公園では、ビオトープ探検での経験を生かし、どこにどんな生き物がいるか、水の中でどんな様子で生息しているかなどといったことを観察することができた。また、久留女木棚田では、地域の方からお話を聞き、地域の良さを感じることもできた。

4 成果と課題

臨時休校があり、約2か月の実践で、地域にいる生き物や植物を調べ、ビオトープや親水公園等を実際に探検する慌ただしい中だったが、一人一人が目的をもち、自主的に活動することができた。しかし、子供同士が関わり合って調査・観察する段階までは進めることはできなかった。学級での話し合い活動を通して、関わる経験を深め課題に対して取り組んでいけるようにしたい。